●●● 春季表彰 ●●●

吟剣詩舞による老人介護施設等への慰問活動で春季善行表彰を受賞して

青森県三沢市　田村　冴子

この度、令和六年度春季善行表彰を賜り心より感謝申し上げます。

私が詩吟を始めたのは三歳の頃でした。きっかけは祖父母が詩吟の先生だったからです。

小さい頃から発表会などに出ていろんな活動をしてきました。小学校高学年になったら、大会にも出場するようになり、数年間は東北大会どまりでした。

コロナの流行が始まり、前回の大会から数年空いた二〇二二年の東北大会で、念願だった優勝、全国大会の出場が決まりました。とてもうれしかったです。家族や周りの方々も喜んでくれてがんばってよかったと思いました。詩吟を始めて十三年、嫌だな、やりたくないと思う時も少しありましたが、おじいちゃんが喜んでくれるのでここまで続けることが出来ました。

これからもずっと詩吟を続けていきます。またこれを機に詩吟を多くの方に知ってもらいたいです。今年も全国大会に出場します。三年連続の出場でとても嬉しいです。

春季善行表彰を受賞して

群馬県立長野原高等学校図書委員会ボランティア受賞者代表　大島　若菜

この度は、令和六年度春季善行表彰を賜り、受賞団体グループを代表して心より感謝申し上げます。

私は、高校三年間図書委員会読み聞かせボランティア活動に参加してきました。長年に渡り、本校では有志のメンバーで、一年に一作品大型紙芝居を作成しています。シナリオから絵描き、色塗りまで、ボランティア生徒が携わり完成しています。

大型紙芝居は、認定こども園やこども館、高齢者施設など訪問して読み聞かせをしています。私は、ボランティアを通して、身についたことがたくさんあります。年齢の異なる方と交流することができ、更に自分に自信がつくようになりました。訪問先では、いつも出張読み聞かせを楽しみに待ってくれます。そしてたくさんの温かい言葉をかけていただきました。ボランティアを経験し、地域に貢献できて良かったです。

最後になりますが、日本善行会の益々の発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

●●● 金　章 ●●●

柔道指導を通して特別善行金章を受賞

福岡県福岡支部　原野　武広

昭和三十年、小学校六年生の時に、兄の影響で柔道場に通うようになりました。受け身から始まり、武道柔道の心構えみたいな教えをしっかり指導されました。その道場の先生は元警察官で、非常に厳しい方で「いじめ・他人に迷惑をかける」様なことでもしようものなら、生きた気持ちがなくなる程に怖い先生でした。

昭和三七年十八歳、陸上自衛隊に入隊。入隊後も柔道は続け、師団内で三年連続柔道十傑の指定を頂き、陸上自衛隊全国大会出場も経験しました。若気の至りで「三任期満了退職」、六年間の自衛隊勤務を終え再就職しました。仕事の合間に地域活動として、柔道の指導に取組み、幼稚園児から一般社会人まで男女を問わず来るもの拒まずで、役場職員と二人で指導しました。

これが善行会の目に止まり、地域における青少年健全育成に貢献したとして平成十六年表彰状を頂き、引続き特別表彰善行銀章受賞、有難いことに今回（令和六年）特別表彰善行金章受賞の栄誉を賜りました事はひとえに福岡支部の鳥巣正行支部長初め多くの方々のご支援ご協力の賜物と衷心より感謝とお礼申し上げます。

鳥巣支部長の口癖のように聞こえる言葉「世のため人のため」、「してやっている」では人は傍によってこない、人さまに寄り添えるような行いをしているからこそ、人は傍に寄ってきてくれる。「させていただいている」が私の目指している姿勢です。

やはり人は一人では生きて行けない、周りの人に支えられて初めて独り歩きが出来るものです。まだまだ此れからです。今後とも今まで以上にご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げ、受賞のお礼とさせて頂きます。

有難う御座いました。

特別善行金章を受賞して

栃木県南支部長　眞尾　博

この度　令和六年度春季特別善行表彰にあたり、善行金章という栄誉を賜り心から御礼と感謝申し上げます。

私は昭和五八年頃、子ども会育成会に関わり、昭和六一年町内会長を引き受けたのがスタートでした。当時は町内の小学生だけでも百三十名を越えた子供がおり、特にスポーツが盛んで町内少年野球、少女ソフトボール、ドッジボールの地区大会、市大会が、子どもの夏休み中に開催され、地域役員と共に充実した時間を過してきました。

今年八十才にして、現在も子ども会にかかわっておりますが、子どもの活動は変らないが、親の考え、協力は変化しています。子どもの人数が減っているのが原因で子ども会育成会の役員を引き受ける人が少なくなり、活動に支障がでておりますが、ジュニアリーダーを育て住み良い地域を創ることを誓い、善行表彰金章に恥じぬ様今後も頑張ります。

日本善行会の益々の発展をご祈念申しあげます。

支部だより

群馬県北毛支部

第二十三回チャリティーゴルフコンペの開催及びゴルフコンペの収益金を児童養護施設への寄付について

群馬県北毛支部では発足以来恒例となった「第二十三回日本善行会群馬県北毛支部チャリティーゴルフコンペ」を去る七月十五日（月）海の日、榛名山麓の「伊香保国際カンツリークラブ」で開催しました。

このゴルフコンペは会員相互の融和・親睦を図ることと、県民への善行会活動の啓発のため、並びに日頃善行会活動を理解され、支援いただいている方々と会員との交流を図ることを目的に、広く参加者を募り開催しているものです。今年は、猛暑の中、昨年と同数近くの約三百名と多くの方に参加いただき、盛大に開催致しました。今回もコロナ感染防止を図り、ハーフコンペを取り入れ、表彰式は行いませんでしたが競技を終了した参加者一人ひとりに支部長から賞品とお礼状を手渡し、感謝を伝えました。

参加者から寄せられたチャリティー収益金の一部を児童養護施設「子持山学園」、被害者支援センターすてっぷぐんま、地方紙「上毛新聞」の「愛の募金」へ寄付を行い、財団法人上毛新聞厚生福祉事業団より感謝状を頂きました。会場では、昨年度から新事業の障害者支援施設への支援活動の一環として、「ペットボトルキャップ収集活動」を参加者に呼び掛け、沢山のペットボトルキャップを回収し、地元支援施設へ寄贈するなど、善行会並びに善行活動を県民にアピールすると共に理解を深めることが出来、大きな成果をあげることが出来た実りある大会となりました。

受付の状況

ふる里自慢

熊本県宇土支部

九谷　新吾

轟水源と日本最古の上水道

宇土半島の北側・約5kmにわたって続く「御興来（おこしき）海岸」は日本の渚百選、日本の夕陽百選にも選ばれた景勝地です。有明海は干満の差が激しく、潮が引いた海岸の砂地には、風と波による美しい砂の曲線が現れその砂浜のあまりの美しさに、第十二代景行天皇が〝神輿をとめて魅入った〟という伝説が残る場所で、それからこの海岸を「御輿来海岸」と呼ぶようになったと言われています。

肥後三名泉の一つで、日本名水百選にも指定されている水源です。三百数十年前当時の宇土藩初代藩主である細川行孝公が轟水源から延長4・8kmにも及ぶ土管を城下まで運ぶ大工事を行い、その後、第五代藩主・興文公が破損の激しかった土管を馬門石を使った石管に改修。現在でも百二十戸の家庭の生活用水として使われている日本最古の上水道です。

善行会募金箱の利用と配布について

令和六年九月十一日に開催された財政検討委員会と理事会において、本部で善行会の募金箱（組立て紙製）を製作し、支部の総会や伝達式、本部の表彰式や会員総会の場に募金箱を置いて、出席者や参列者に善行会事業活動の支援をお願いしていくことが了承されました。裏面の空欄に支部名を押印して善行会の周知にも役立ちます。

収益は、それぞれ（支部又は本部）の収入となります。収益はきちんと会計（記帳）するものとします。

つきましては、希望される支部は募金箱を配布しますので、事務局まで必要な個数をお知らせください。

ホテルグリーンタワー幕張
社主　林　昇志
Tel.043-296-1122
〒261-0021 千葉市美浜区ひび野2-10-3

一般社団法人日本善行会
群馬県北毛支部
支部長　島村　弘子
〒377-0063
渋川市北橘町分郷八崎 787-1
☎ 0279-23-3111

一般社団法人日本善行会
渋谷区支部
支部長　石毛　義朗
〒262-0021
千葉市花見川区花園町 36-13
☎ 043-271-2971

協賛広告

令和７年度版皇室カレンダーの頒布が始まりました。ご希望の方は事務局までご連絡ください。